

## 平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	253	国際性に富む人材育成留学事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部課名	企画部科学技術振興課 教育庁県立学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成 24 ~ 33 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した 教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	国際性と個性を涵養し、グローバルに活躍できる人材の育成を図るため、高校生75名をアメリカ、欧州、アジア、オセアニア、南米諸国へ1年間、大学生25名を海外諸国へ1~2年間派遣する。また、アジア太平洋諸国とのネットワーク形成を図るため、ハワイ東西センターへ2名派遣する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	197,032	—	223,245	—	230,733
		(b)予算現額	197,032	—	223,245	—	206,149
		(c)増減額(b-a)	0	—	0	—	▲24,584
		(d)前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		197,032	—	223,245	—	206,149
	B. 執行済額		191,168	—	180,908	—	199,055
	うち交付金充当額		152,934	—	144,726	—	159,244
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		97.0%	—	81.0%	—	96.6%
予算の状況の説明		1. 予算減額後の最終予算額に対する事業全体の執行率は96.6%である。 ・予算減額の主な理由：大学生等の派遣において①6名の派遣辞退 ②授業料等の精算による執行残 2. 事業の内訳について (1)ハワイ東西センター 執行率は99.9%と計画通りに予算執行できた。(執行済額4,382千円/予算現額4,385千円) (2)(1)以外の事業については、執行率は96.5%となっている。(執行済額194,673千円/予算現額201,764千円)					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	①高校生75名を1年間、アメリカ、欧州、アジア、オセアニア諸国へ派遣。 ②大学生等25名を修士課程、1年課程で海外へ派遣。	目標	①高校生70人 ②大学生等30人	①高校生70人 ②大学生等30人	①高校生70人 ②大学生等30人	①高校生75人 ②大学生等25人	
		実績	①高校生70人 ②大学生等25人	①高校生70人 ②大学生等29人	①高校生70人 ②大学生等23人	①高校生75人 ②大学生等19人	
	③社会人等をハワイ東西センターへ2名派遣	目標	—	—	2名派遣	2名派遣	
		実績	—	—	2名派遣	2名派遣	
達成状況説明	①、②について ・平成28年度の大学生等の派遣は高校生75人と大学生等25人合わせて100名を派遣予定であったが、大学生等の派遣生の中から大学からの受け入れが得られず派遣を辞退した6名を除く94名の派遣となった。 ③について ・ハワイ東西センターへの派遣については、目標どおりに派遣することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (24年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (33年度)
	①(高校生)海外大学への進学や再度海外への留学を目指したいと考えている生徒の割合85%以上 ②(大学生等)留学での研修成果を今後の活動または現在の職に活かしていきたいと考えている者の割合85%以上	目標	—	①高校生85%以上 ②大学生等85%以上	①高校生85%以上 ②大学生等85%以上	①高校生85%以上 ②大学生等85%以上	①高校生85%以上 ②大学生等85%以上
		実績	—	①高校生88% ②大学生等100%	①高校生81% ②大学生等100%	①高校生90% ②大学生等100%	—
	③ハワイ東西センターに派遣された社会人等についてコミュニケーション能力が向上したと実感できた者の割合85%	目標	—	50%以上	50%以上	85%以上	85%以上
		実績	—	100%	100%	100%	—
	進捗状況説明	①、②について ・年度を跨ぐ事業であり、平成28年度は、平成26・27年度に派遣され、平成28年度に帰国した派遣生へ帰国後のアンケートを行った。そのアンケートでは、高校生について「再び留学したいと思う」と回答したものが、90.0%であった。また、大学生等についても振り返りからもほとんどの派遣生が「留学の成果を今後の活動に活かしていきたいと思う」と回答していた。 ・留学を経験した多くの派遣生が留学体験を肯定的に捉えており、今後の進路や活動に大きく影響を与えることが期待される。 ③について ・成果目標であるコミュニケーション能力が向上したと実感できた者の割合は、実績が100%となっており達成することができた。					

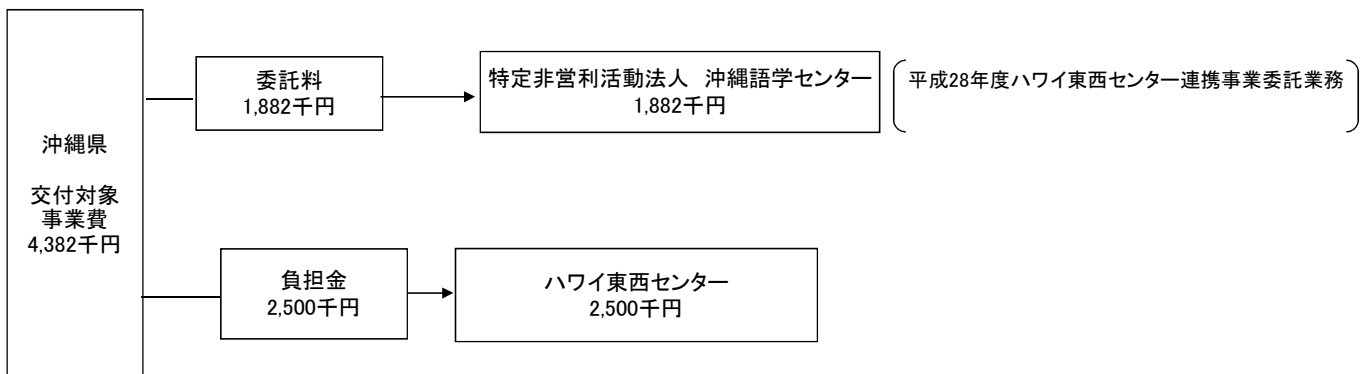
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業による留学生派遣プログラムを活用した、ハワイ東西センターへの留学の魅力について、広く県民に周知し、募集者の増加に繋げる必要がある。</li> <li>・高校生のアンケート調査で「再び留学したいと思う」と回答したものが、90.0%であったが今はどちらともいえない6.4%を加えると肯定的な意見が多かった。</li> <li>・大学生等の振り返りからも、「留学の成果を今後の活動に活かしていきたいと思う」と回答したものがほとんどである。</li> <li>・消費税の増税や為替相場の変動によるプログラム費用等への影響を注視していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き大学等での説明会を実施するとともに、人材育成に関心の高い企業を訪問し、周知広報することにより、応募者の増加を図る。</li> <li>・事業効果については、高校生を含め学生が就職するまで一定の期間を要するため、動向調査の徹底が必要となるが、調査方法や時期等について、検討する必要がある。</li> <li>・消費税増税や為替の変動を考慮した予算立て。</li> <li>・外務省渡航情報等を参考にし、委託業者と密に連携を図り、派遣生の安全確保に努める。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<p>1. ハワイ東西センターについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各関係団体へポスター配布や大学及び社会人向け説明会の開催、企業訪問等により、ハワイ東西センターへの留学の魅力を伝えて、広く県民へこの制度の周知を図り、応募者を増やして目標どおりに派遣者を確保する。</li> </ul> <p>2. 1以外の事業について</p> <p>(1) 高校生、大学生等に共通する事項:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 研修報告書の作成 (全県立高等学校及び全市町村の図書館へ送付)</li> <li>② 平成29年度予算の為替の変動を考慮した積算</li> </ol> <p>(2) 高校生について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 研修報告会の開催</li> <li>② 進路先調査等の実施 大学進学先 (大学や学部、県内外、国内外等) や就職先の調査を行う。 個人個人で進学就職時期が異なることから、年1回程度アンケートと共に動向調査を実施する。</li> </ol> <p>(3) 大学生等について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 動向調査 ア. 大学生や専門学校生の就職先 (県内外、国内外等) 調査の実施      イ. 社会人の現状報告</li> <li>② アンケートの実施 (年1回) ア. 今後、プログラムに参加する派遣生へのアドバイス等      イ. 本プログラムの内容等について (改善点等)</li> </ol>

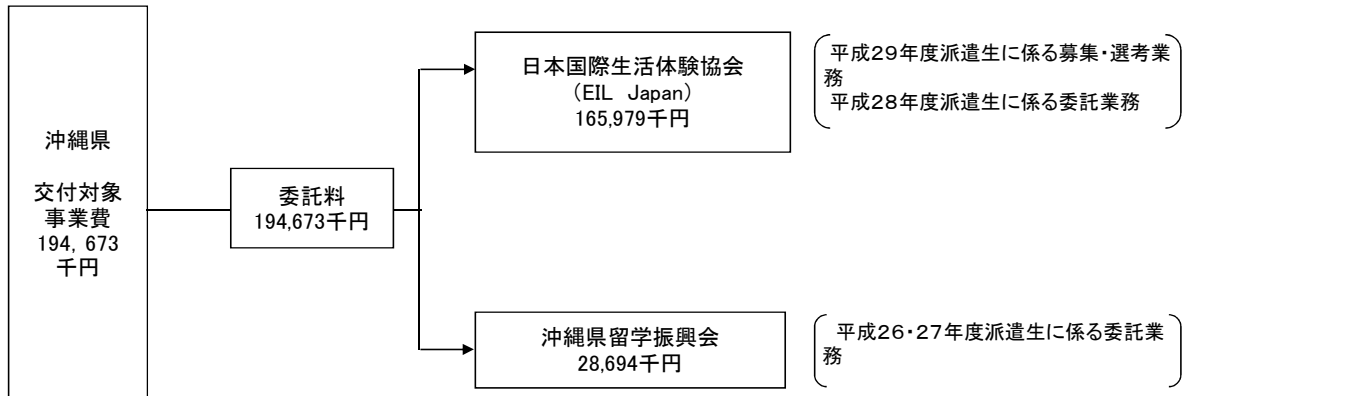
**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
199,055	199,055	159,244	39,811	0	0	0

(1) ハワイ東西センターへの派遣事業



(2) (1)以外の留学事業



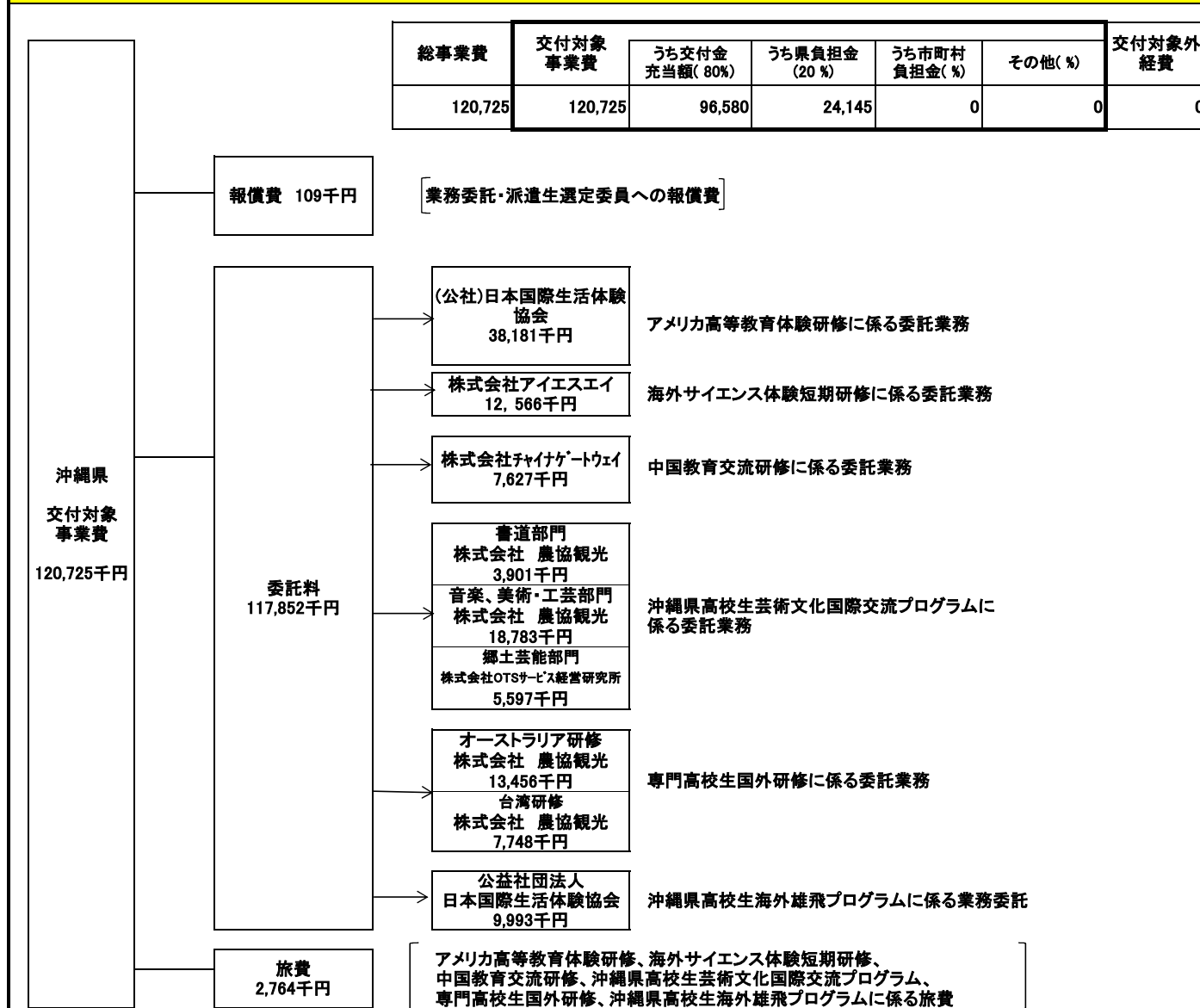
資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	(ハワイ東西センター) ○委託業者は、企画競争により提案内容、業務体制、予算規模などを総合的に勘案して選定しており、妥当であると認められる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目、用途については、金額の確定時に検査を行い、適正であると認められた。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	(上記以外の事業) ○委託先については、公募によるプロポーザル形式で決定した。平成26・27年度派遣生の帰国に係る業務、平成28年度派遣生の派遣に係る業務、平成29年度派遣に向けての募集選考業務を行ったが、委託先がそれぞれ業務を円滑かつ確実に遂行した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

<b>事業番号・事業名</b>	254	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
<b>担当部課名</b>	教育庁 県立学校教育課・文化財課	<b>事業実施（予定）年度</b>	平成 24 ～ 33 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進  Ⅲ-3-(1)		
<b>事業内容</b>	グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りのため、①アメリカ高等教育体験研修、②海外サイエンス体験短期研修、③中国教育交流研修、④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム、⑤専門高校生国外研修、⑥沖縄県高校生海外雄飛プログラムを実施する。						
<b>実施方法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
<b>予算額・執行額【単位：千円】</b>			26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	108,099	-	118,310	-	121,194
		(b) 予算現額	108,099	-	118,310	-	121,194
		(c) 増減額 (b-a)	0	-	0	-	0
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	108,099	-	118,310	-	121,194
	B. 執行済額	102,713	-	117,251	-	120,725	
	うち交付金充当額	82,170	-	93,801	-	96,580	
	C. 次年度繰越額	0	-	0	-	0	
	執行率 (%) (B/A)	95.0%	-	99.1%	-	99.6%	
予算の状況の説明	・予算額が平成26年度から平成27年度にかけて増となっているのは、新規事業実施のためである。 （平成26年度：「専門高校生国外研修」新規実施 平成27年度「沖縄県高校生海外雄飛プログラム」新規実施） ・不用額については、受託者提示額が予算を下回ったためである。 ・当初計画の事業内容は全て実施できたことや、活動目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。						
<b>活動目標（指標）及び達成状況</b>	H28活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	海外短期研修派遣者数240人	目標	175人	215人	240人	240人	
		実績	172人	215人	239人	240人	
		目標					
実績							
達成状況説明	①アメリカ高等教育体験研修(50人) ②海外サイエンス体験短期研修(25人) ③中国教育交流研修(20人) ④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(80人) ⑤専門高校生国外研修(40人) ⑥沖縄県高校生海外雄飛プログラム(25人) 以上①～⑥の細事業において高校生240人を海外短期研修へ派遣。						
<b>成果目標（指標）及び進捗状況</b>	H28成果目標（指標）		基準値 (27年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (33年度)
	海外への興味関心の高まりや、長期留学を目指したいと考えている生徒の割合→85%以上	目標	85%以上	/	85%以上	85%以上	85%以上
		実績	98.6%	/	98.6%	95.3%	-
		目標					
		実績					
進捗状況説明	・各短期研修実施後の事後研修においてアンケート(設問：「海外の大学等、今後の留学や就職等に興味や関心が高まったか等」)を実施したところ、92.5%の生徒が海外への興味関心の高まりや、長期留学を目指したいと考えていると回答したことから、成果目標は達成できた。 ※各細事業におけるアンケート回答状況 ○アメリカ高等教育体験研修(①90%)、○海外サイエンス体験短期研修(②100%)、○中国教育交流研修(③80%)、○沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム【書道部門(④100%)】、【音楽部門(⑤100%)】、【美術工芸部門(⑥100%)】、【郷土芸能部門(⑦100%)】、○専門高校生国外研修【オーストラリア研修(⑧100%)】、【台湾研修(⑨95%)】、○沖縄県高校生海外雄飛プログラム(⑩88%) (①～⑩合計953÷10=95.3%)						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、現地研修において自ら進んで研修へ参加する意欲を育むため、コミュニケーションツールとしての英語力を身に付ける語学研修や異文化理解について学ばせる必要がある。</li> <li>引き続き、研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力の高い生徒を選考する必要がある。</li> <li>テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前研修等における外国語講師を活用した語学研修の充実や異文化理解について前年度派遣生、引率教諭による体験談から生活習慣の違い等を学ばせる必要がある。</li> <li>選考試験における書類選考時の英語能力資格等の実績については得点のウエイトを高める必要がある。また、面接試験内容について更なる語学力、積極性を計る選考試験を実施する必要性がある。</li> <li>外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>事前研修においては、引き続き英会話能力向上を図るための外国語講師活用、異文化理解についての研修を実施する。</li> <li>受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の派遣時には綿密な報告・連絡・相談を行う。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	